

【課題解決型研究プログラム】安全確保研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 化学物質の健康影響評価に関して神経発達毒性や多世代影響の評価に係る研究に加えて、生態学モデルに基づく生態リスク評価に関する研究が水環境、大気環境も含めて継続して推進されている【年度】
- OECDの試験法開発に貢献している。【年度】
- 化学的毒性などに関する高い専門知識に基づきリスク対策案の策定に努力している。ただ、細分化していて環境科学としての統合的視点がやや見えにくい印象を受けた。【年度】

今後への期待など

- 体系的に位置づけられた9つのプロジェクトに取組み、着実に成果をあげた。第5期でのプロジェクト間での融合、リスク評価・管理の体系構築を目指すプロジェクト8「リスクへの評価・管理の体系構築研究プロジェクト」のさらなる発展に期待する。【年度】【事後】
- 東シナ海でのメチル水銀の挙動は興味深いのですが、結果だけではなく他の測定データや研究結果などと比較をして解析されることを期待する。【年度】
- PM2.5による健康影響については、疫学研究により死亡数上昇や黄砂による胎盤早期剥離の増加などが指摘されたが、粒子中の特定物質や物質群が関与しているかなど原因の解明を進めていただきたい。【事後】
- 福島県沖の継続的な生物相調査は重要なデータの蓄積です。憶測での議論が進む分野でもありますので、さらなる継続を期待する。【事後】
- 水質改善・評価等については、新たな重要な事象が解明されているが、保全を前提とする改善手法の開発では個別対策の域をでていない。例えば、水域の安全確保の保全対策の科学的知見としてまとめられる成果を期待する。【年度】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 化学物質の健康影響評価研究、生態学モデル、大気環境などの研究を進めてきたこと、OECDの試験法開発に関してご評価いただきありがとうございます。
- ② 統合的視点についてはプロジェクト8「リスクへの評価・管理の体系構築研究プロジェクト」の取り組みを通じて努力はしておりますが、次期の研究においてさらに統合的視点を示せるよう努力します。
- ③ 東シナ海では中深層までは溶存酸素濃度の減少に反するようにメチル水銀濃度の増加がみられることから、溶存有機物の再石灰化反応と関係があると考えられていますので海水中の溶存有機物濃度の鉛直分布や微生物活動等と比較して解析する予定にしています。
- ④ PM2.5の健康影響については、事例が少なく要因について明確な回答はできません。他の研究事例も参考にしながら要因解明を進めたいと思います。
- ⑤ 福島県海面における漁業の本格操業再開が本年4月に予定されている中、環境中の放射性物質濃度の低減に加えて魚介類の棲息密度の経時変化に関するモニタリングも重要と考えています。震災・原発事故後の生態系の変化との観点から調査・解析を継続します。
- ⑥ 水質改善・評価については、安全確保のために今後行っていくべき水質保全対策について研究を実施してきました。今後、成果の統合化や既存技術、制度の取りまとめを行い水域の安全確保の保全対策の科学的知見としてまとめる方向で努力して参りたいと思います。